2013年度
ITインフラ研究会 成果報告

2014年4月24日

ITインフラ研究会

研究テーマ	・ビジネスに貢献できるITインフラの研究 ・37名の方が参加
研究会概要・方針	・ITインフラ領域全般の企画・統制の検討 ・ITインフラ技術のトレンドならびにビジネス現場での活用事例の収集 ・ITインフラ構築・運用の現場で活かせるようなノウハウや知見の共有等

2013年度の活動

全体会	・クラウドをテーマとして講師を招き講演して頂いた
分科会	・大枠テーマについて参加希望を募り、3チームに分かれた ・今年度の具体的なテーマや進め方についてグループで討議、各チームで進行した ・全体会にて各チームの状況を報告することで研究会全体として情報共有を行った

ITインフラ研究会 年間実施状況（2013年度）

No	日時	会場	テーマ
第1回	2013年05月08日(水) 16:00~18:00	JUAS@CR202★	キックオフ：研究会活動方針
第2回	2013年06月14日（金） -15日（土）	軽井沢プリンスH	合宿研究会 1日目　分科会キックオフ/活動方針、討議 2日目　テーブルディスカッション
第3回	2013年09月11日（水） 16:00~18:00	JUAS@CR202	分科会報告 『最新クラウド動向』 Co-meeting 吉田　雄哉　氏
第4回	2013年11月13日（水） 16:00~18:00	JUAS@CR303	分科会報告 『クラウドセキュリティ』 日本クラウドセキュリティアライアンス 山崎　英人　氏
第5回	2014年01月16日（木） 16:00~18:00	JUAS@CR202	分科会報告 『クラウドサービスの調達（契約）について』 日本サード・パーティ株式会社 森本　良照　氏

ITインフラ研究会 年間実施状況（2013年度）

No	日時	会場	テーマ
第6回	2014年03月05日（水） 16：00~18：00 ★18:00~交流会	JUAS 202	全体会の振り返り 各分科会の成果発表
-	2014年04月24日（木） 13:55~14:25	ヒューリックカンファレンス浅草橋 会場 1	活動成果報告会

★：情報交換会実施(JUAS主催)

テーブルディスカッション（合宿2日目 ）

・他のチームとの交流を目的とし、テーブルごとにテーマを決めて、そのテーマについて情報共有したい、あるいは情報提供できる人が集まって議論＆情報共有を行った

セッション	Aトラック	Bトラック	Cトラック
① 9:00～10:10	社内クライアント利用状況に関する情報交換（モバイル端末、シンクライアント、MDM、BYODなど）	パブリッククラウドの利活用に関する情報交換（利用方針、活用事例など）	ITインフラ組織・要員に関する情報交換（体制、人数、スキル、課題など）
② 10:20～11:30	コミュニケーションインフラの導入状況に関する情報交換（電話、メール、チャット、社内SNSなど）	HW/SWの保守切れ対応に関する情報交換（対策、考え方、事例など）	インフラベンダー/製品に関する情報交換（ベンダー動向、個別製品”DBMS、アプライアンス等”、サポート状況など）

2013年度 各分科会活動テーマ

チーム	領域	活動テーマ
Aチーム	企画・統制	・ITインフラ領域全般の企画・統制に関する研究テーマを取り扱うチーム
Bチーム	技術調査	・（インフラ）技術のトレンドならびにビジネス現場での活用事例を、主な研究テーマとして取り扱うチーム
Cチーム	開発・運用	・ITインフラ構築・運用の現場で活かせるようなノウハウや知見の共有を行うチーム

各分科会　成果報告

A分科会（チーム大）

活動方針

チーム	ITインフラ研究会　A分科会
研究テーマ	ITインフラ領域全般の企画・統制
研究目的	PDCAサイクルの中で計画（Plan）と評価（Check）にフォーカスをあて、実業務での事例紹介を経て、今後のヒントにする。

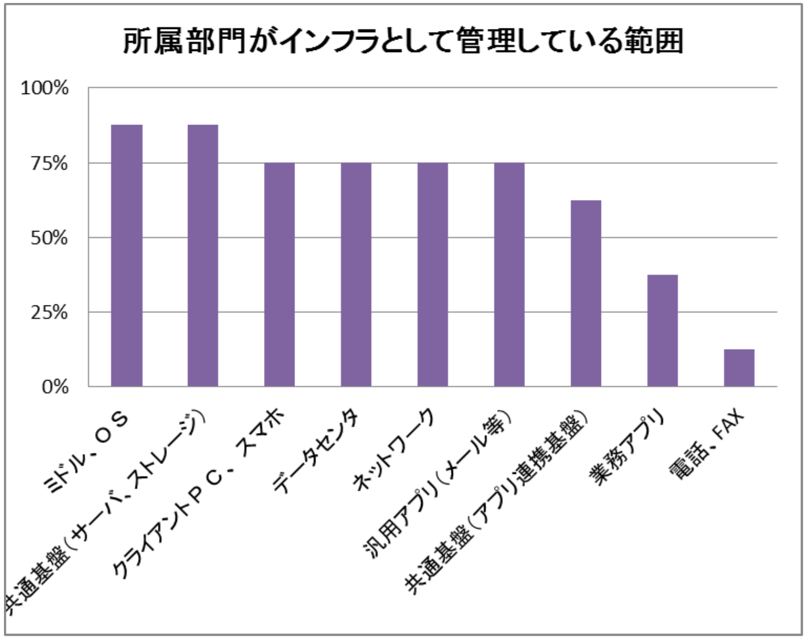
活動スケジュール

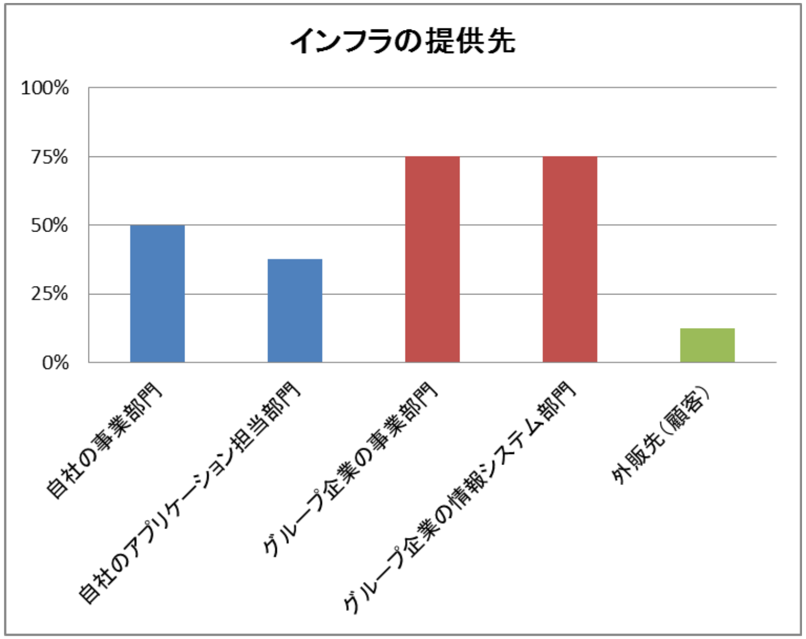
回	日付	曜日	時間	開催場所	テーマリーダ	テーマ
1	6月14日	金	13:00-17:30	軽井沢プリンスホテル		テーマ決め・リーダー決め
2	7月24日	水	13:00-17:00	JUAS 302会議室	大西	（計画）システムの標準化と共用化、全体最適の進め方
3	9月11日	水	13:30-16:00	JUAS 202会議室	永田	（評価）システム予算と規模の妥当性
4	10月17日	木	14:00-17:00	JUAS 302会議室	石井 村瀬	（評価）RFIの進め方、オンプレミスorクラウド □新技術の評価と導入判断のポイント （計画）システムの標準化と共用化、全体最適の進め方
5	11月13日	水	14:00-16:00	JUAS 303会議室	岡田	（評価）保守サポート切れとコスト削減課題についての対策案
6	12月11日	水	14:00-17:00	JUAS 302会議室	太田	（計画）中長期計画の策定方法、進め方及び評価
7	1月16日	木	14:00-16:00	JUAS 202会議室	税田 鹿島	（計画）インフラ全体の構築手法 （評価）障害発生時の定量的な損害についての指標、費用対効果
8	2月28日	金	14:00-17:00	大阪		一年間の活動の振返り

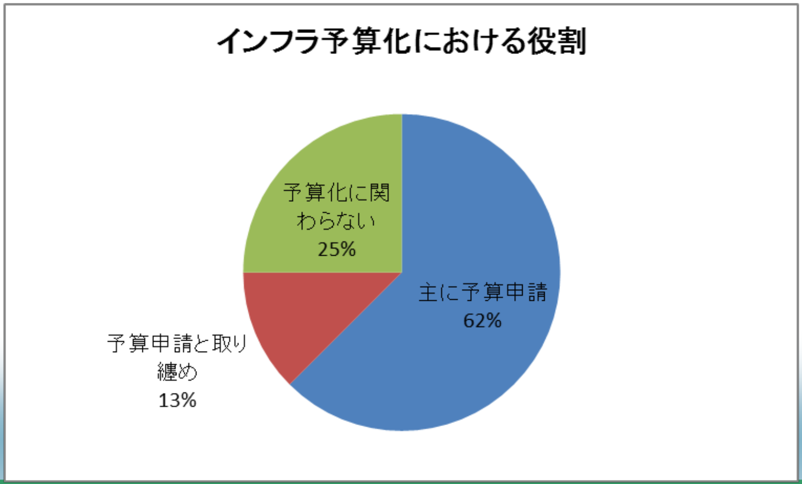
メンバー

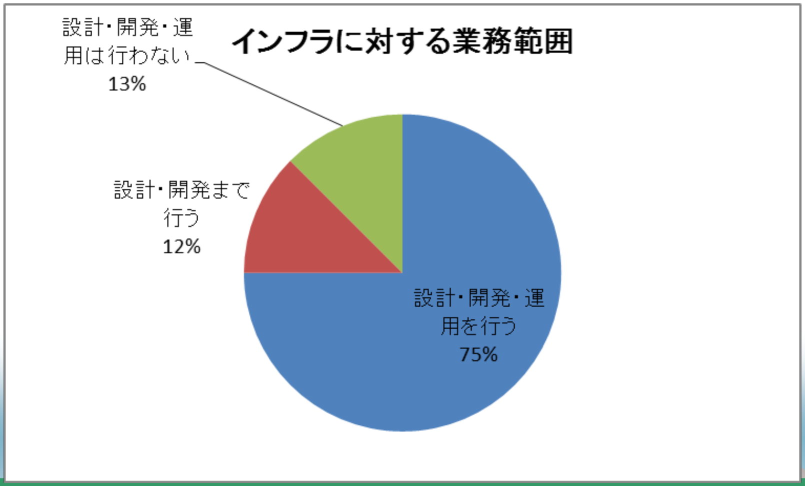
計14名

メンバープロファイル


所属部門がインフラとして管理している範囲
100%
75%
50%
25%
0%
ミドル、ＯＳ
共通基盤（サーバ、ストレージ）
クライアントＰＣ、スマホ
データセンタ
ネットワーク
汎用アプリ（メール等）
共通基盤（アプリ連携基盤）
業務アプリ
電話、FAX


インフラの提供先
100%
75%
50%
25%
0%
自社の事業部門
自社のアプリケーション担当部門
グループ企業の事業部門
グループ企業の情報システム部門
外販先（顧客）


インフラ予算化における役割
予算化に関わらない 25%
主に予算申請 62%
予算申請と取り纏め 13%


インフラに対する業務範囲
設計・開発・運用は行わない 13%
設計・開発まで行う 12%
設計・開発・運用を行う 75%

活動報告

活動報告

研究テーマ

既存システムから新システムへの切り替えの判断基準

日　時：13/7/24（水） 13:30-17:00
場　所：井門堀留ビル　日本情報システム・ユーザー協会 302会議室
参加数：14名（テーマリーダ―：大西）

活動内容

・事例紹介
1　DMZ廃止による公開サービスの廃止（鹿島）
2　利用実績より、利用ユーザの少ない画面の廃止（森永乳業）
3　サーバ、ストレージの切替（荏原製作所）
4　グループウェアの移行・統合（インフォテック・サービス）

【まとめ】
・やはりトップダウン方法でないと徹底されない。
トップにはITについては、コストで説明する（技術論は理解できない）。
コスト意識を常に持って運用していく必要がある。
・サンセット条項を盛り込んでおく。
（例：月間システム利用者数100名以下になり次第サービス廃止　等）
あらかじめ新システム開発時にシステム終了条件を記載しておく。
運用担当部署も条項に抵触しない様、運用をきちんと行うメリットも出る。
・システムの運用期間をあらかじめ決めておく。
その期限が来たら、有無を言わせず、リプレース、見直し等を行う。
ロードマップを書いておくとなおよい。

活動報告

研究テーマ

システム予算と規模の妥当性

日　時：13/9/11　（水）　14:00-16:00
場　所：井門堀留ビル　日本情報システム・ユーザー協会 202会議室
参加数：10名（テーマリーダ―：永田）

活動内容

・検討課題
　1．社内システム予算の計画プロセス
　2．社内システム投資予算の執行プロセス
　3．社内システム投資における費用負担の方法

【まとめ】
・社内システム予算は、①システム維持、②戦略的な施策、③効率化の観点で整理できる
・計画にあたっては、財務部門、企画部門が中心に前年度策定するケースが多い
（策定時期は８月～２月と各社それぞれ異なっている）
⇒多くが売上計画、要員計画から予算を策定
（財務部門、企画部門では要員が減るとIT予算が減るという誤った認識を持っている会社も存在）
・予算は全社もしくは間接部門にて管理しており、各社承認ルールに従い執行
・費用負担スキームは各社さまざまではるが、本来的には受益者負担を取入れていきたいという企業が多い
⇒パソコン、サーバ、各システムをサービスメニュー化することで標準化

活動報告

研究テーマ

RFIの進め方、オンプレミスorクラウド　1
～新技術の評価と導入判断のポイント～

日　時：13/10/17 （木）　14:00-17:00
場　所：井門堀留ビル　日本情報システム・ユーザー協会 302会議室
参加数：8名（テーマリーダー：石井）

活動内容

．RFI及びRFP作成の勘所

有益な情報を得るための RFI(Request For Information)作成	・できるだけ、こちらの情報を幅広くかつ正確に開示する。 ・どのベンダーに提案してもらうか見極めできている必要がある。そのために日頃からの情報収集を怠らない。 ・調達仕様書づくり自体を外部に委託する。 ・選定から漏れてもお付き合いを継続し、次の調達に向けた情報収集に活かす。
有益な提案を受けるための RFP(Request For Proposal)作成	・詳細要件よりも、背景・目的を正確に記述する。 ・切り口を指定した上で、自由提案できる項目を用意する。 ・第三者機関のアドバイスを受けながら、どのベンダーに投げるかを決める。 ・責任分界点を明確に提示し、提案ベンダーのリスクバッファを取り除く。

．オンプレミス or クラウド

クラウド導入のメリットを活かせるシステム	・基盤更改時に必要な一時費用が不要。 ・メールやコミュニケーションツールといった汎用的なシステムの導入・維持コスト削減。 ・グローバル企業における海外との接続口として。 ・データセンターを自社で持ち続けることに疑問を感じた時。
クラウド導入の障害	・重要情報管理に対する自社の管理基準が異常に高い。 ・自社のサーバを仮想化するだけで、十分メリットが活かせる。 ・標準サービスだと安いが、オプションやカスタマイズを重ねるとかえって高額。 ・保証、ＳＬＡが貧弱。ユーザー要求を下げるのが困難。

活動報告

研究テーマ

RFIの進め方、オンプレミスorクラウド　2
～新技術の評価と導入判断のポイント～

日　時：13/10/17　(木)　14:00-17:00
場　所：井門堀留ビル　日本情報システム・ユーザー協会 302会議室
参加数：8名（テーマリーダー：石井）

活動内容

3．新技術の評価、導入判断のポイント

新技術採用（又は否決）の判断ポイント	・ファーストユーザにはベンダーの支援が手厚い。 ・トップの好み。 ・基本的に採用しない。 ・検証コストまで含めて総合判断。
新規性に伴うリスクは軽減できたと判断できる導入事例の条件	・同業事例、国内事例、しかも複数事例。 ・先行導入によるITでの差別化には重きを置かない。 ・他社事例よりも導入経験者（人）をプロジェクトに参画させる。 ・スモールスタートでリスクを軽減する。

4．ベンダー選定の失敗談

選定後ベンダーへの不満	・価格（改修費用、ライセンス更新） ・技術力、提案力 ・営業手法、振る舞い（→政治的な取引に持ち込む、ロックインに誘う） ・担当者の頻繁な変更、受注前後での態度豹変
ベンダー選定失敗の回避方法	・ベンダーや製品選定を開発プロジェクトに一任せず、専門の委員会で決定する。 ・マネジメントベンダーを別途調達。 ・短期契約でベンダーに危機感を植え付ける。 ・決裁権を持つ上司の動きに注意。

活動報告

研究テーマ

保守サポート切れとコスト削減課題についての対策案　1

日　時： 13/11/13 （水）　14:00-16:00
場　所：井門堀留ビル　日本情報システム・ユーザー協会 303会議室
参加数：8名（テーマリーダ―：岡田）

活動内容

■保守切れに関する悩みや不満について
- 保守期間が短すぎる
  →それに伴うハード、ソフト移行の費用・手間が膨大
- 保守・移行費用に関する社内の理解が得られない
- マルチベンダーを採用すると保守期間がまちまちになる
- 購入後何年でなく、発売後何年というケースは非常に困る

■保守切れに対する対策方法の事例について
- 並行運用期間を設けて保守切れにならないようにする
- 保守無での運用を視野に入れることもある
- 故障しやすい部品については自前で部品をストック
- 仮想化・クラウドの利用

活動報告

研究テーマ

保守サポート切れとコスト削減課題についての対策案　2

日　時：13/11/13（水）　14:00-16:00
場　所：井門堀留ビル　日本情報システム・ユーザー協会 303会議室
参加数：8名（テーマリーダ―：岡田）

活動内容

■保守料やライセンス料での問題点や課題について
・とにかく費用が高価。更新時の値上げ。販社による価格差。
・開発期間のライセンス費用

■コスト削減事例の紹介
・ベンダーの一元化
・他ベンダーへの切替、調達先の変更
・保守料の安いソフトウェアへの移行
・仮想化
・OSS化
・保守のレベルを下げる

■コスト削減時の苦労した点、問題点
・社内調整
・ベンダーは基本的に価格が下がる提案は持ってこない
→競合他社製品への切替、もしくはそれを匂わせての価格交渉
・重要機能以外のテストを簡略化することによる工数減

活動報告

研究テーマ

中長期計画の策定方法、進め方及び評価

日　時： 13/12/11 （水）　 14:00-17:00
場　所：井門堀留ビル　日本情報システム・ユーザー協会 303会議室
参加数：9名（テーマリーダ―：太田）

活動内容

■内容
・昨年度のＩＴインフラ研究会にて作成した「ＩＴインフラ中期計画作成ガイド」の記載内容を解説し、意見交換を実施した。

■主な意見など
・レベル２（言われる前にやる）を前提に記載されていると言うものの、全体的にやや「受け身」な印象を受ける。ＩＴインフラ部門自身の夢や要望(思い)などの「意思」も、分析プロセスの与件として含めるべきではないか。

⇒現実はその通りだが、それを全面に出すと経営計画との整合性などで、つじつまが合わなくなる恐れがある。あくまでも「周辺環境の分析から導き出した」という体裁にすることが重要と判断した。

・各社ではパートナーやSi-erの評価を全社横断的に行っているか？

⇒意見交換の結果、専任チームを組成して全社のパートナーやSi-erあるいはプロジェクトの品質等を管理・統制している企業は比較的多かった。

活動報告

研究テーマ

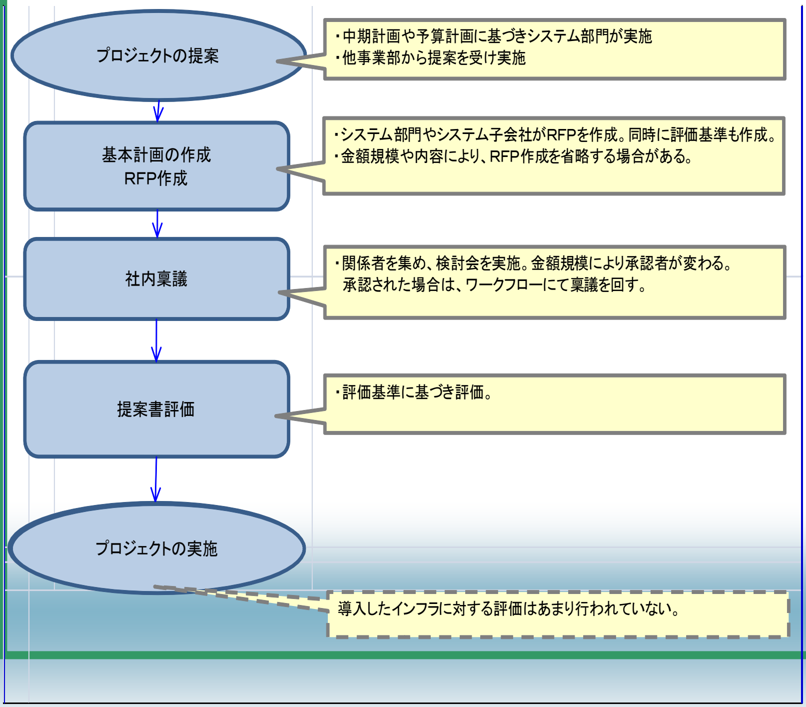
インフラ全体の構築手法

日　時：14/1/16 （水）　14:00-16:00
場　所：井門堀留ビル　日本情報システム・ユーザー協会 202会議室
参加数：6名（テーマリーダー：税田）

活動内容

【内容】 ＩＴインフラ構築にあたり、

■ＩＴインフラ構築にあたっての業務フロー
・標準的なフローは次の通り



■業務フローにおける問題点
・社内の検討会で時間を要する
（稟議自体はワークフロー導入により短縮）

・ベンダーからの新たな提案が少ない

・リリース後、制度としてレビューはあるが、徹底されていない。

・開発プロセス管理の強化を実施しプロジェクト品質は向上したが、プロセス管理強化のためのエビデンス作成や各種審査手続き等に伴う工数が増加した

活動報告

研究テーマ

障害発生時の定量的な損害についての指標、費用対効果

日　時：14/1/16 （木）　 14:00-16:00
場　所：井門堀留ビル　日本情報システム・ユーザー協会 202会議室
参加数：6名（テーマリーダ―：鹿島）

活動内容

・検討課題
1．システムのサービス停止時の影響度（損害）についての指標
2．システムのサービス停止時の影響度とそのシステムにかける費用の費用対効果について

【まとめ】
・大半のメンバーからは、サービス停止時の影響度についても指標は無いとの回答があり。中でも、システムトラブルを６段階に分けて、トラブル報告基準を決定している会社があった。
他の意見としては、トラブルを４段階に分けているなどの影響度を決めている。
・システムの重要性によりサービス停止に対してのシステム毎にかけている費用に対して効果を算出しているかという問いに対しても算出していないとの意見であった。
・インフラ構築では、大半の企業がシステムの重要性をランク付けして、それに見合ったサーバ構成で構築しているケースが多いことがわかった。

活動報告

研究テーマ

一年間の活動の振返り

日　時：14/2/28（金）　14:00-17:00
場　所：大阪
参加数：５名

活動内容

・活動報告資料の確認

・各社、現課題についての情報交換
　－プロジェクトにおけるSNSなどの活用状況
　－インフラ基盤への仮想取り組み状況
　－社内システムにおける受益者負担の取組み状況　　　　など

終

B分科会（チーム IIR）

Team of Infrastructure Innovation Research

年間活動内容（2013年度）

#	Date	Loc.	Theme
1	2013年06月14日（金） -15日（土）	軽井沢プリンスH	合宿研究会 分科会キックオフ/活動方針、討議
2	2013年08月09日（金）	インテル様 (有楽町)	テクノロジーマップ、IT部門の取組みなど。 (インテル様)
3	2013年09月11日（水）	JUAS	ディスカッション
4	2013年10月25日（金）	トレンドマイクロ様 (新宿)	パブリッククラウド活用 実践編 (吉田　雄哉 様) クラウドセキュリティ事例、ほか (トレンドマイクロ様)
5	2013年11月13日（水）	JUAS	ディスカッション
6	2013年12月13日（金）	ソフトバンクテレコム様 (汐留)	ワークスタイル、クラウドサービス、スマートデバイス活用事例 (ソフトバンクテレコム様)
7	2014年01月16日（木）	JUAS	ディスカッション
8	2014年02月14日（金）	JUAS	分科会活動纏めプレ
9	2014年03月05日（水）	JUAS	オープンソース活用事例 (アシスト様) 分科会活動纏め

メンバー構成（14名）

合宿/Kick-Off （今年の調査テーマ）

- 合宿で各社の課題を共有

- コスト削減
- 脱
メインフレーム
- 仮想化
- クラウド
- セキュリティ
- OSS活用
- Notes
リプレース
- ビッグデータ
- ワークスタイル
変革
- モバイル活用
BYOD
- WindowsXP
サポート終了

⇒　各社様々

クラウドを中心テーマに選定

- 各社で検討が進んでいるクラウドを中心に！
  - ・脱オンプレミス？、コストカッター？
  - ・OSSなど、間口を広く研究することとした。

活動方針

チーム	Infrastructure Innovation Research（B分科会）
テーマ	（インフラ）技術のトレンドならびにビジネス現場での活用事例
研究内容	■ メーカー事例調査や各社の事例共有 ■ 研究テーマに囚われない情報交換　（悩み相談も） ■ 参加率を高めるため、１話完結型で調査 目標：参加率80% ✓ クラウド ✓ セキュリティ ✓ 仮想化/モバイル ✓ OSSなど、 先端メーカー様の事例紹介を実施する計画でスタート

クラウドに関する各社の悩み

- クラウド導入はかなり真剣に検討。
  それ故、導入形態や悩みはいろいろあり。
  ・セキュリティは確保できるか？
  ・性能は十分か？
  ・信頼性は？
  ・コストは本当に下がるのか？
  ⇒ これら懸案事項を調査

クラウドの課題① 《セキュリティ》

- 重要データを外部に預けて大丈夫なのか？
  - ・トレンドマイクロ社訪問
  - ・クラウドエバンジェリストからの事例紹介

日時：2013年10月25日(金)
場所：トレンドマイクロ(株)様@新宿
内容：クラウドセキュリティ事例

- セキュリティの懸案は大きく分けて２つ
  - ・ソフトの脆弱性など技術面
  - ・なんとなく不安という意識面

⇒ セキュリティリスクの整理・対策を研究

Ex. – クラウドパーソナルFW
– クラウドセキュリティガイドライン

クラウドの課題② 《性能・信頼性》

- 性能・信頼性は確保できるのか
  - ・インテル社訪問

日時：2013年08月09日(金)
場所：インテル(株)様@有楽町
内容：ロードマップ、データセンター、…など

- クラウド（データセンター）で使用されるサーバのCPUやストレージの最新動向を研究。
  - ・ストレージSSD化
  - ・製品の機密情報を扱う部門システムは、オンプレミス

クラウドの課題③《コスト》

- クラウド活用でコストは下がるのか？

・ソフトバンクテレコム社訪問

日時：2013年12月13日(金)
場所：ソフトバンクテレコム(株)様@汐留
内容：ワークスタイル、モバイル…事例

- 現状コストとの比較だけでは不十分

・（コストアップとなるケースも多い）モバイル活用などによる効果の増大も含めて、費用対効果を議論する必要あり

- ソフトバンクグループ様の事例

・ペーパーレス化

・モバイル活用。（iPad/iPhoneによるグループウェア活用等）

その他テーマ 《モバイル、OSS》

- オープンソース活用？
  - ・アシスト社の事例紹介

日時：2014年03月05日(水)
場所：JUAS
内容： PostgreSQL… 事例

- DBの商用からOSSへのシフトが進む。
  - ・切換え時は、システム保守切れ（EOS）？
    - – DB移行はちょっと大変そう・・・
    - – コスト削減。
  - ・ソフトの保証担保は悩みどころ、細かいチューニングでは商用有利？
  - ・スモールスタート。（業務の中心は避ける）

課題/事例紹介研究踏まえて

- 技術的な課題は概ね解決・・・
- コストについて、特に自前でデータセンターを保有している会社だと短期ではコストアップになる
- さまざまな効果（短期構築、柔軟なスペック変更）や長期的な要員計画も勘案して、クラウド活用を増やしていきたい

分科会各社のクラウド活用事例①

- ホームページのアクセス急増に対し、クラウド（サーバ・インターネット回線の増強）で対応

・サーバの能力は、仮想化VMWareで柔軟に増強可。
通信回線は難しい。
⇒ クラウドなら柔軟・迅速に増減可能。

・エバンジェリスト訪問の際の「主要クラウドでサーバを構築するデモ」が、実業務（トラブル対応）で非常に参考となった。

分科会各社のクラウド活用事例②

- 最新技術の検証や開発環境にクラウドを利用
  - ・調達スピード優先
  - ・費用対効果の実績はこれから。
    特に、ランニングコストは。

分科会各社のクラウド活用事例③

■ オンプレミス依存型からの脱却検討へ

・パブリッククラウドのトライ検証。

その他、活用事例

- Windows XP対応
  - ・間接部門踏まえるとコスト的には悩ましい。
    - CPUはCeleron？
    - バックグラウンドでのCPU負荷も増大傾向
      ⇒　総務部門系もCore iシリーズ
  - ・Windows7化は、企業間でバラツキあり。
    - トレンドマイクロ社セキュリティで、WindowsXP延長も。

分科会活動の成果

- クラウドの事例研究を中心に活動。
  - ・知識の再確認、活用方法など。
  - ・自社へのフィードバック/活用も一部で進む。
- 分科会出席率は・・・　約50% (通年)
  - ・祝1周年 (ここだけの話)

来年に向けて

- クラウドは各社で導入事例も増え、いよいよ本格化、来年は各社の事例研究・情報交換を実施
- Windows Server 2003対応で、OSSの活用事例も・・・　研究テーマとして。
- その他、変化の大きな技術分野（モバイル、ビッグデータ、OSS）を引き続き研究。

Thank You

C分科会（チーム　けろけーろ）

チーム名・役割分担

チーム名	チーム　けろけーろ
リーダー	1名
サブリーダー	2名
その他役割分担	書記長　:1名 書記　:5名

活動方針

研究テーマ

開発・運用の現場で直接活かせるような情報やノウハウ、知見の収集と共有を行う

活動内容・進め方

活動内容:
•テーマを設けて、各社における事例を紹介し、課題の共有、意見交換を行い、各社の悩みと解決策を共有する。
進め方:
•スケジュールに従い、テーマ毎に事例紹介を行う。
•事例紹介後、質疑応答などの議論を行い、気づきを整理する。
•特に参考になった事例紹介については、全体会で紹介する。

スケジュール

No	議題	日時	場所	紹介者（敬称略）
1	セキュリティ	2013/7/26(金) 14:00-17:00	JUAS	ﾃｰﾌﾞﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
2	標準化	2013/8/23(金)14:00-17:00	石油資源開発	ﾃｰﾌﾞﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
3	BCP	2013/9/11(木)13:00-16:00	JUAS	吉田、宮地、井村
4	オープン化	2013/10/18(金)14:00-17:00	丸文	田村
5	クライアントPC	2013/11/13（水）13:00-16:00	JUAS	辻、宮地
6	コミュニケーション	2013/12/20(金)14:00-17:00	JFEｼｽﾃﾑｽﾞ	田村、大山
7	スマートデバイス	2014/01/16(木）13:00-16:00	JUAS	大山、田村
8	振り返り	2014/03/05(水)13:00-16:00	JUAS	

第1回討議内容

セキュリティ

No	紹介事例	企業		
1-1	各社セキュリティ対策についてのフリーディスカッション			

＜気づき＞

- セキュリティ全体について
  情報セキュリティ事故の対応
  - 第一報をどうしているのか
    → 大抵は上長に連絡。
    → PCやスマホなどの紛失では懲戒解雇もあり得る。
    （JALインフォテック、NEC情報システム）
- NECの情報セキュリティ事故のビデオは教育という意味ではなかなかおもしろい。

第2回討議内容

標準化

No	紹介事例	企業		
2-1	各社標準化についてのフリーディスカッション			

＜気づき＞

- 運用(ヘルプデスク業務)に関する標準化についてディスカッションした。

　→ サービスデスクと運用業務について、標準化を作り上げ、ヘルプデスクについては、システムを導入して効率化を図った。

第3回討議内容

BCP

No	紹介事例	企業		
3-1	BCP構築・訓練	石油資源開発	吉田	
3-2	DRサイトへのデータ転送方式	NEC情報システムズ	宮地	
3-3	BCPの現状	山崎製パン	井村	

＜気づき＞

•セッション3

- マシン室が1カ所集中で自家発電設備が無かったので、大震災時に輪番停電の影響を受けた。
- DRサイトを大阪に設置
- 同期する場合の回線容量が課題。
- DRサイトは普段使わないので、BCPに対する経営層の問題意識の醸成が大切。

第4回討議内容

オープン化

No	紹介事例	企業		
4-1	オープンソースの活用事例（運用）	丸文	田村	

＜気づき＞

•セッション1

- 監視ツール（Zabbix）、ヘルプデスク（OTRS）の組み合わせで運用をする。
  → 障害管理もこれで行うが、監視ツールからのメール送信を受け取り自動でインシデントを作る仕組みはノイズの除去が課題。
- オープンソースのメリット
  → コスト、改造ができる（自分でも直せるのがメリット、だけどデメリットでもある）
- オープンソースのデメリット
  → サポート、情報が少ない、商用サポートは高い、英語ができれば問題ない、バージョンアップが鬼門で旧データをあきらめるケースが多い。
  日本語環境が弱い。

第5回討議内容

クライアントPC

No	紹介事例	企業		
5-1	共有PCの活用事例	コクヨ	辻	
5-2	シンクライアント事例	NEC情報システムズ	宮地	
5-3	社内イントラのクライアントPCのセキュリティ対策	NEC情報システムズ	宮地	

＜気づき＞

•セッション1

- 共有PCの展開

→ 1人1台ではなく、その場にあるPCを利用
（情報システム部56名の75%を共有化）

- シンクライアントは費用の問題から採用せず。
- 営業（ファニチャー部門）に展開予定。⇒抵抗は意外に少ない。
- データはファイルサーバで保管するのが重要。

第5回討議内容

クライアントPC

No	紹介事例	企業		
5-1	共有PCの活用事例	コクヨ	辻	
5-2	シンクライアント事例	NEC情報システムズ	宮地	
5-3	社内イントラのクライアントPCのセキュリティ対策	NEC情報システムズ	宮地	

＜気づき＞

- セッション2

・持ち出しPCなどの重要情報の紛失などがあって、シンクライアント化を推進。
通常PCをデータ保存ができないシンクライアントOSに入れ替え、データ保存はできるがWipeできるPCに置き換え。
（Wipeは結構時間がかかる？→暗号化キーを削除すると早くなる）
シンクライアントOSへ入れ替えることで、Windows XP端末の継続利用が可能。

・USB型のシンクライアントの仕組み
自宅PCを「シンクライアントOSがインストールされたUSB」で起動して利用

・画面の方が転送量は少ない。
ただ、シンクライアントについては通信環境がネックになる。

第5回討議内容

クライアントPC

No	紹介事例	企業		
5-1	共有PCの活用事例	コクヨ	辻	
5-2	シンクライアント事例	NEC情報システムズ	宮地	
5-3	社内イントラのクライアントPCのセキュリティ対策	NEC情報システムズ	宮地	

＜気づき＞

•セッション3

- •PCのセキュリティ情報を収集して管理する(見える化)
- •フロア単位にPCを管理する。(未適用は5%未満で対応)
- •セキュリティ対策ソフト未導入PCがNWに接続された場合は、検知ソフトで検出。
- •パッチ配信はWSUSで強制実施。

第6回討議内容

コミュニケーション

No	紹介事例	企業		
6-1	GoogleApps導入	丸文	田村	
6-2	社内SNSの失敗事例	JFEシステムズ	大山	

＜気づき＞

- セッション1
  - 仕様変更が頻繁にあるので、影響範囲を調べるのが大変。
- セッション2
  - いろいろ試したものの没になったものが非常に多い。
  - 運用が伴わないとなかなか普及しない。

第7回討議内容

スマートデバイス

No	紹介事例	企業		
7-1	スマートデバイスの導入に関する考え方	JFEシステムズ	大山	
7-2	iPhone導入事例	丸文	田村	

＜気づき＞

•セッション1

・スマホの電池はテザリングでもそれなりに保つ。
・iPadの普及は2桁程度（テレビ会議用）
・BYODについては、IP電話を入れているが、会社支給は定額制なので導入無し。
・OSのバージョンアップについては、別途指示して対応する。
・本来、半数くらいがBYODに移行すると見込んでいたが、会社支給iPhoneを先に配布してしまったので、BYODに変更する人はいない。
従って、BYOD移行は1桁にとどまっている。
・電話帳はどこまで保管しているのか。（個人電話帳は規制しきれていない。但し、匿名にする。）

第7回討議内容

スマートデバイス

No	紹介事例	企業		
7-1	スマートデバイスの導入に関する考え方	JFEシステムズ	大山	
7-2	iPhone導入事例	丸文	田村	

＜気づき＞

•セッション2

・スマホ連絡カードの配布（リモートワイプの対応）と、紛失は24時間365日受付。

・BYODはしていない（客先の事情による）。

・定期的に資産管理情報をチェックして、中に変なシステムが入っていないか監視。

・GoogleAppsなどは端末認証で認証を実施している。

・共有ファイルサーバはアクセス禁止。

最後に…活動全体を通して

良かった点・反省点

・良かった点
各社の事例、本音などを伺うことができた。
様々な会社に行けて議論ができて面白かった。
挙げたテーマに関してはほぼ話を聞くことができた。
事例発表について、各自が自社それぞれの状況を整理できた。
・反省点
話し足りない部分があった。
もっとメンバー各社の状況をこの目で見たかった。
参加メンバーがもう少し（２～３名）欲しかった。
知見を全体会で発表するに至らなかった。

次年度に向けて

・統一テーマを決めて、全員が事例報告し合ってディスカッションする方式を取り入れても良いかもしれない。
・今回は1回1テーマだったが、上記の方式をとるならば、数回に分けて同じテーマを引っ張っても良いのではないか。
・運用・体制についてのテーマを最初に含めた方が良かったかもしれない（各社の違いがここで出て議論が深まったかもしれない）。

終